



芝小だより

第二月号

続「みんなが住みよい社会って」

道徳授業地区公開講座のその後

校長 齋藤幸之介

去る一月十九日(土)に道徳授業地区公開講座を行いました。多数学御参観いただきまして誠にありがとうございました。日々改善が求められる「特別の教科 道徳」ですが、各学級での授業を丁寧にご覧いただき、有難い御意見を多数頂戴いたしました。今後の指標にしてまいりたいと思っております。また、諏訪の森法律事務所弁護士 中川重徳先生には、LGBTを中心に据えたお話をさせていただきました。多くの場面で変わっていく世の中を生きていく子供たちにとって「様々な立場」から考えることは今後一層求められることであろう。そのきっかけになれば、と改めて願っております。

さて、中川先生の御講演の後、私は先生のお話に大に関係があると思われる新聞記事を読みました。いずれも、一月二十一日(月)に掲載されたものです。先生が私の関心を広げてくださったから、と思っております。

「当たり前」が変わっていく

朝日新聞社は、「日本の未来を語ろう」と称して議論を行う発信しています。昨年十二月には「セクシャリティー」について語られました。ロバート・キャンベルさんは、日本ではまだ、自分のセクシャリティーについて公言するということとは難しく、「公表できるような状況を作っていくかなけれ



ばならない」こと、一方で「矛盾するもの」であるが、「可視化する必要性も感じている」と、そして「出来る限り」一人ひとりが慎重かつ大胆に行動することが重要になる」とまとめられています。

議論では、「当事者の周囲の人はどう振る舞えばいいのか」も挙げられたそうです。登壇者の松岡宗嗣さんは、「人を構成する要素はさまざま。『普通』にあげはめず、一人ひとりと向き合っていく」と述べています。

「当たり前」が変わってきていることを深く捉えることが大切ではないか、そのために私共教職員は子供たちと何をどのように考えていくかを改めて吟味したいと思いますが、皆様はいかがお考えになるでしょうか。

「自分らしく」生きる

毎日新聞の朝刊には、「くらしナビ ライフスタイル」という欄があります。「くらし」をよみながら「ミスカーポート」(牧野あおい作 月刊少女漫画誌「りぼん」連載中)が載っていました。先日、書店に行ったらこの漫画を手に入れました。私は大学生時代の一時期に何回か月刊少女漫画を読んでいたことがあり、三十数年ぶりの購入となりました。

かつてアイドルであった女子高生が、過去を隠すために男子生徒と同じ制服を着用します。大妻女子大学准教授の田中東子先生は、男子が「男に媚び売るために履いてんだろ? スカートなんか」と言ったのに対して「あんたら男のために履いてんじゃないえよ」と主人公がすぐシーンに注目し、「も



てるためではなく、自分自身のために可愛くめりたいという感覚が強い、今の若い女子に響く言葉だ」と述べています。女性専用車両なども取り扱われているこの漫画の「ロビ

は」「このまんがに、無関心な女子はいても、無関係な女子はいない」です。様々な世の中のある様に揺れる若者がどのように生きていくのかは、「まるごと」自分らしく」ということになるのでしょうか。そして、答えを求めようとしながらも「いろんな事に傷ついてうまく割り切れない」「自分をどうしよう、と考え続けていくのかもかもしれません。つまり、「自分らしく」を模索し、いつの日にかその答えを見出していくことが求められているのかもしれない。

ツイッターには「男性にも読んでほしい」といった声がかつているのだそうです。

自分らしく生きることは、自分らしさを見付けること、また自分らしさを認めることも求められますから、大変なことです。また、自分らしさを伝えていくことも必要になります。さらに、相手を認める自分であることも不可欠です。それでも、このことは一人一人の幸せにつながるのです。私は、中川先生が子供たちに最後におっしゃった憲法十三条「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」の意味を改めて噛みしめています。